

～第1回 哲学の道デザイン検討会議の様子～



今後開催する「哲学の道デザイン検討会議」につきましても、今回と同様に随時、皆様へ会議の内容や状況をニュースレターでお届けいたします。

発行：哲学の道デザイン検討会議事務局
 京都市：土木管理課（電話：075-222-3568）
 京都市：左京土木みどり事務所（電話：075-791-9134）

道路や公園で損傷箇所を見つけたら「みっけ隊」アプリで投稿しよう！

「みっけ隊」はスマートフォンから道路等の損傷箇所を写真と地図情報で投稿できるアプリです。
 ぜひ、みっけ隊アプリをダウンロードして投稿して下さい！



みっけ隊 で検索！

みっけ隊ホームページ
<https://mikketai.city.kyoto.lg.jp>



皆さんからの投稿
 お待ちしています！



令和6年11月

哲学の道デザイン検討会議ニュースレター

Vol. 1

京都市では、哲学の道について、京都にふさわしい景観に調和し、かつ安全で通行しやすい道となるよう路面のデザインについて、専門家、地域の方々から意見や助言をいただくことを目的とする「哲学の道デザイン検討会議」を立ちあげ、令和6年10月7日（月）に第1回の会議を開催しました。

当日は、事務局（京都市）から哲学の道の概要を説明した後、10名の委員の皆様から哲学の道への想いや課題点等について、様々な御意見を頂戴しましたので御紹介させていただきます。

～哲学の道の概要～



（舗装済区間の状況写真）



（未舗装区間の状況写真）



～各委員の皆様からいただいた主な御意見～

- ・京都市は、全国的にも有数の暑い街で桜には大変なダメージがあると思っている。土の道には、表面温度の低さ、桜の根に対するダメージの少なさ、蓄熱しない、水を吸収する等の優位性がある。
- ・今の哲学の道の土の部分は、水たまりができたり、小石の飛散、車椅子の方には危ないなど、維持管理の状態がいいとは思っていないため、土埃を低減するなど様々な商品の活用や行政指導を行いながら「新しい地道」の整備ができないかと考えている。
- ・哲学の道や土の道である半木の道（北山大橋～北大路橋の賀茂川東側堤防付近）を現地視察する日程を入れてほしい。
- ・哲学の道は、天橋立とともに日本の道100選に選ばれた特別な道であり、皆さんの鑑賞に堪える立派な道にして子孫に残したい。

- ・色々な人（車椅子・ベビーカー・杖を利用されている方、家族連れの方等）が集える場所にしたい。また、歩きやすいようにしたい。
- ・道の景観を美しくしたい。
- ・砂利道を残すとか、全部舗装するとかの両極端ではなく、それぞれの良いところを残す折衷案を考えたい。

- ・道幅が広い道路が交差する箇所だけでも、景観に配慮した点字ブロックが必要だと感じた。
- ・市電の敷石を再利用している事例もあるので、不要になったものを再利用できないか。
- ・景観が良いので、大豊神社から南側は砂利道のまま残すことはできないか。

- ・舗装の箇所は、落ち葉清掃がしやすいが、砂利道の箇所は、掃除が行き届いておらず、雑草も生えている。
- ・砂利道は、雨が降った後は凸凹するなど、生活道路として色々な問題がある。
- ・桜の寿命は50年と言われており、桜の自根が出ているのは、年月が経った古いものであり、舗装の影響ではないと思う。

- ・昭和45年の哲学の道整備時に比べて、デザインの可能性は高まっており、広く可能性を検討、共有しながら、メリット、デメリットを踏まえていくことが重要だと思う。
- ・経済性にも配慮しながら持続的に舗装を機能させ、道路管理者が負う管理責任の部分もしっかり踏まえて議論することが重要と思う。

- ・舗装された部分では、つぎはぎの補修跡や埋設管工事跡が目立ち、舗装が少し掘れた箇所や細かな舗装骨材が削れたりしている。
- ・砂利部分では、沿道住民が土埃の掃除など毎日大変な思いをされている。
- ・水はけの良い舗装や温度上昇を抑制する舗装、無電柱化などを検討してほしい。

- ・車が通行できる砂利道の区間は、路面の状態が悪い。
- ・砂利部分は水たまりなどがあると自転車で真っすぐ走れないので景色を楽しめない。また、足の悪い方は大変だと思う。
- ・疏水側に地道があるので大丈夫と思うが、舗装すると桜に影響が出ないか心配である。

- ・砂利道は自転車が通りにくい。
- ・車椅子が通れる幅だけを舗装し、砂利を残してはどうか。
- ・昔からの砂利の風情を大事にされたい方も多いので、水はけがよく、砂利が散らない、新たな技術がないものか。
- ・最近、水たまりがある道は、哲学の道以外にはほとんどないので、そのような光景があってもいいと思う。

- ・洗心橋より北は、概ね舗装されているのでとても歩きやすい。
- ・ただ、凸凹、埋設企業者の掘削復旧跡、補修跡の色合いが気になる。
- ・色を合わせた補修などは、できないのでしょうか。

- ・舗装の構造基準や経済性にも配慮する必要がある。
- ・修繕材料の色や素材が異なるとどうしても景観が損なわれる。
- ・今後のメンテナンスや小規模な修繕への対応も課題である。
- ・車道にも用いられる擬石の舗装（例えば石畳風の舗装）は、本物の石をきれいに見せたうえで、綿密に色を調整することができるため、周辺景観になじんだ様々な整備事例があり、それらを集めて議論を深めていければいい。
- ・道には、連続性といった繋がり、他、スポーツ的な考え方もあり、総合的な検討が必要。

